



第1回

「まちづくりって何だろう」

日時:平成30年7月7日(土)

時間:13:00~16:30

場所:名古屋都市センター14階会議室

「まちづくりを知ろう!楽しもう!」をテーマに平成30年度まちづくりびと講座(入門編)が開催されました。「まちづくりびと」とは、まちづくりに関心を持ち、積極的にまちづくり活動に取り組むに担い手のことで、本講座では、地域の住民のまちづくり活動の輪を広げていく事も目標にしています。

「まちづくりびと講座」は、講師による座学だけでなく、「参加者が考え、共有し、まちなかでやってみたい事や、興味のあることを深める」ことを中心に進めていきます。

「第1回目」では、受講者みんなで「まちづくり」のイメージを共有したり、まちづくりの担い手について考えました。

この講座の特徴に、過去の受講生(まちづくりびと)がスタッフとして参加し、一緒に講座を運営していただくということがあります。今回の講座でも、さとまー(佐藤さん)、しほさん(出口さん)のお二人に協力いただき、講座の中での司会進行や、ファシリテーショングラフィック(模造紙への出てきた意見の記録)を務めていただきました。

佐藤さんの司会で始まり、まずはじめに講座開催の目的と「まちづくりびと」とは?を都市センターの事務局スタッフはまちゃん(濱内)から説明し、講座後の目指すゴールなどを、共有しました。





講師: 稲葉 久之さん
フリーランスファシリテーター
修士(教育ファシリテーション)
愛知淑徳大学 非常勤講師

青年海外協力隊、NGOを通じ、アフリカでコミュニティ開発に従事。現在は、日本のまちづくりや地方創世の取組みを支援するファシリテーターとして活動中。

♥ アイสบレイク ♥

ここから、稲葉さんに講座を進めていただきました。最初はアイสบレイクから。受講生の皆さんに、簡単に名前だけの自己紹介をしてもらいました。ここで、初めて声を出すことで受講者も気持ちもほぐれ、笑顔も見受けられました。次に、歩き回りながらペアを作りお互いの共通点を探すゲームを行いました。

まず2人、次に4人、さらには8人・・・と、みんなの共通点探しが始まりました。お互いに正面から向き合い、話してみないと共通点は見つかりません。

共通点は、「名古屋市在住」、「目が悪い」から始まり、「メガネをかけている」と、色々探り合いの結果、最後の全員の共通点は、「何かしら目に不具合がある」にまとまり、こうして、初対面同士の距離は縮まりました。



♥ グループワーク「まちづくりのイメージ」 ♥

その後、いよいよ講座の内容に入っていました。まずは最初のワーク「まちづくりのイメージ」をみんなで共有するために、それぞれに「まちづくり」という言葉からイメージすることを、講師の説明の後に、付箋に記入していきます。

【付箋の使い方のルール】

- ・1枚に1つのデータを記入する
- ・単語やキーワードでなく文章で記入する
- ・マーカーなど太めのペンで、読みやすくするなど

次に、多数出た付箋を整理する際に、「分類」と「集類」の2つの方法について、違いを説明していただきました。

「分類」は、あらかじめ整理する枠組み(分類のタイトル)を決めておいて、それに沿って付箋を選び分けていく方法。一方「集類」は、意味を味わいながら類似する付箋を集めながらあわせて枠組みも作っていく方法。集類は、それぞれのカードの意味や関係性が見えてきたり、創造的に考えられるメリットがあることも説明いただきました。



さらに、イメージ共有のキーワードとして「個人と集団」があること、「私は・・・」「私達は・・・」という主語で考えることで、自分ごととして問題を捉えることができること、また個人と集団のワークを行き来することで問題を深めていけることなどの説明がありました。

グループごとに自分達で書いた付箋を模造紙に出して集類をしてみました。記入者の意図を聞き、共有しながら集類し、どんな意見があるのかをまとめていきました。

グループごとに発表が行われ、ハードからソフトまで、人により「まちづくり」に対する見方、考え方が違うこと。それが、各グループ共通の気づきだったようです。



休憩をはさみ、講師の稲葉さんから、自己紹介を兼ねて自身がかかわってきたまちづくりの事例紹介をしていただきました。ご本人の略歴から、セネガルでの支援活動や、港まちづくり協議会での仕事、設楽町でかかわった取り組みについての事例紹介などしていただきました。



次に、先輩まちづくりびとスタッフの出口志穂さんに、講座受講のきっかけと修了後に行ってきた活動や、区民会議などでの、ファシリテーターとしての経験、現在の仕事である、名古屋市市民経済局地域コミュニティ活性化支援員の派遣制度の紹介をしていただきました。

講師より身近なOB・OGの話をお聴きすることで、受講者自身も、講座の受講後に、どのように関わっていくことができるかなど、少しイメージができたのではと思います。

♡ グループワーク:まちづくりの担い手について考えてみよう ♡

ここからは次のワークです。

「行政」「自治会(学区連協)」「組織」「個人」、それぞれの「強み」「弱み」について、付箋紙に各自記入します。

模造紙には、個人の付箋をそれぞれの場所に置いていきました。縦横それぞれの表に置いた付箋ですが、その中でも、分類と集類をすることができ、目で見確認し、お互いに内容を共有することができました。

また、グループごとに完成した模造紙をもとに、発表して聴きあうことでグループ間でさらに共有を深めました。

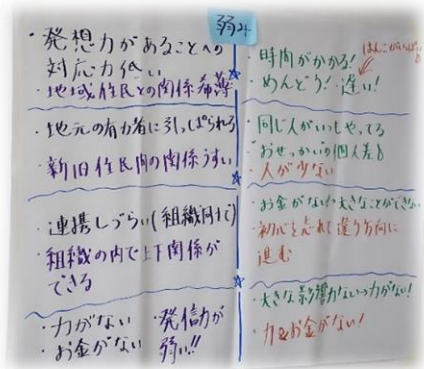
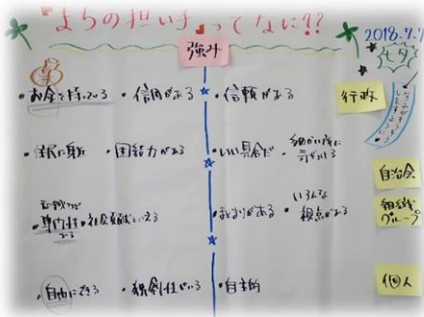


★ファシリテーショングラフィック(内容の視覚化)

スタッフの佐藤さん、出口さんによってファシリテーショングラフィックが行われ、発言をすらすらと1枚の紙にまとめていく、その手際の良さに素晴らしいと感じました。

メモを取らなくても、グループごとの発表内容が、簡潔にまとめられ、全員が内容を見て、共有化することができました。

🌱 まちづくりの担い手についてのまとめ 🌱



それぞれの「強み」として、「行政」はお金（予算）がある、信用がある。「自治会（学区連協）」は住民に身近である、団結力がある「組織」は専門性が高い、いろいろな視点がある、「個人」は自由にできる、自主的にできる独創性があるなどの意見が出ました。

反対に、それぞれの「弱み」として、「行政」は地域住民との関係が希薄、市民にとって、申請などで印鑑がたくさん必要で時間がかかる、など耳の痛い意見がたくさん出ました。「自治会（学区連協）」は、有力者の意見に引っ張られる、新旧住民の関係が希薄、いつも同じ人がやっている、おせっかいの個人差がある、人が少ない、「組織」はお金がない、組織同士の連携がしづらい、初心を忘れて違う方向に進む、「個人」はお金がなく、発信力が弱い、影響力がない、と、「強み」に対して、どの項目も、多くの弱みが出てきました。

(どの項目も、強みより、弱みの方が沢山ですね・・・)

このワークでは、普段、あまり考える機会のない「まちづくりの担い手」を考えてみることで、実は、たくさんの方がまちに関わっていることがわかりました。

🌱 講座のチェックアウト 🌱

講座の終了のひとりひとりに一言感想をいただきました。

「楽しかった」「他の人の考え方が聞けてよかった」「時間が経つのが早かった」「まちづくりについて知ることが出来て良かった」など、良い感想ばかりでした。

今回の講座では、各グループには、ファシリテーターやリーダーを置きませんでした。

その理由は、参加者自ら全員で考え、フラットな立場で主体的に話し合ってもらうためです。

また、10代の中学生から70代まで幅広い世代が各グループにバランスよくわかれ、一つのテーブルに4名というコンパクトな人数で開催したことで、誰もが発言することができ、お互いの人柄や、考え方もわかり合えたように思います。

「今日の講座の中で、どのような学びや気づきがありましたか？」のふりかえり

- ・ 世代を超えて、まちづくりに対する皆さんの思いが感じられました。(50代男性)
- ・ 自分の思い、周りの人の考えている事を知るということは大切だと思った。(10代女性)
- ・ 幅広い年代の方々と意見を共有できた。(10代男性)
- ・ まちづくりについて前より興味、関心が高まりました。(20代女性)
- ・ ハードだけではない、人とのつながりがまちづくりには大切だと思いました。(40代男性)
- ・ 強み弱みを考えた時に、なかなか考えが出てこず、漠然と利用していることに気が付いた。今後は、少しでも考えて、自分の意見を持ちたいと思います。(60代男性)

など、講座に参加してよかったという意見で、楽しく第1回目の講座が終了しました。

